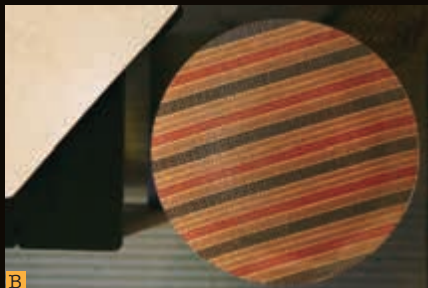


A



A



B

A 仁田原建具製作所
福岡県大川市向島924-6
TEL0944-86-4302

B 坂井ガラス工房
福岡県大川市大字向島1543
TEL0944-86-4465



A

伝統と技術が集積された大川の家具の歴史。
その起源は約480年前にまでさかのぼることができます。
歴史に育まれた伝統的な技術と技法、
そしてその精神が大川のすべての家具に生きています。

◎大川という文化を考える

暮らしと歴史の中で息づく 世界に誇れる匠の技。



C 本村家具
福岡県大川市大字榎津860-2
TEL0944-86-2338

D 桐里工房
福岡県大川市榎津74-3
TEL0944-86-3938

伝統工芸品は、その地域から産出される素材を元に、伝統的な技法と匠の技をもって作られてきたものです。伝統工芸品は、「伝統工芸品産業の振興に関する法律」で次のように規定されています。

- ① 主として生活用具としてつかわれること。
- ② 製造の主な部分が手作りであること。

③ 伝統的技術・技法によって製造する。
伝統的技術・技法とはおよそ100年以上の長きによって継承され、改良され今日に至ったもの。

- ④ 伝統的な原材料を使用している。
- ⑤ 一定の地域で産地が形成されている。



D

E 木屋民芸(こやみんげい)
 福岡県八女市黒木町木屋1159
 TEL0943-42-4808



F 永松木工
 福岡県大川市榎津223-2
 TEL0944-86-3937

大川の家具すべてに伝統を受け次ぐ精神が生きている。

約480年前の室町時代、榎津久米之介によって始まるとされている大川木工の歴史。その頃、全国で社殿や寺院の柱・欄間などに塗装を施す建築彫刻が急速に発達します。大川彫刻の欄間彫刻は、立花藩の立川流の流れをくむ村石繁太郎が始まると言われ、主に社寺彫刻で業をなしていました。昭和に入り木造住宅の茶の間、客間等の鴨居の上に、採光と換気・通風を良くする実用性と、建築の品格を高める装飾性を兼ねて取り付けられてきた室内彫刻欄間へと移り変わります。昭和初期の美術欄間彫刻専門彫刻師の名が現存することから、この時期社寺彫刻

から欄間彫刻への移行がうかがえます。一方、大川総桐箆筒も榎津久米之介が始めた指物が「榎津指物」の起こりとされていますが、大川独特の形となるのは明治に入ってからと思われます。大川組子は約300年の歴史を誇り、200以上もある伝統的な組方は、より繊細なものとして今日に伝承されています。大鋸や台鉋が出現したときのように、木工機械の発達は1mm以下の組手(くで)を削り出し、組子細工の頂点を極めます。筑後花莫産の代表的なものが掛川織。他県産地には見ることができない「い草製品」です。

しかしその期限を知る資料は少なく、享保12年(1727年)久留米藩が置表の価格を定めた中に、掛川と思われるものを始めて見ることができるそうです。また、鳥井清長の浮世絵「楼上夏宵」が描かれている事から推測する研究家もいます。このように長い歴史の中で育まれた様々な技術が大川のかくひとつひとつに受け継がれているのです。



G

H 株式会社 トーシン
 福岡県大川市大字下牟田口123番地
 TEL0944-87-3012



H

G 七三人工房(なみとこうぼう)
 福岡県大川市大字向島1488
 TEL0944-88-3490

